

ご挨拶

京二中鳥羽高校同窓会会長 小川 能弘



ご成長とご活躍をお祈りいたします。

昨年は令和の米騒動も手伝つての物価高や大阪・関西万博の開催でインバウンド熱が非常に高まるなど、我々にとっての故郷である京都に対し、改めて考えることが多かったと思います。同時に、万博を期に価値観も含め世界に触れたり目にする機会があることで、ご自身を見つめ直すきっかけにもなったのではないのでしょうか。

また、学校内に目を向ければ、昨年は多くの部活動が活躍されたと思いますが、その中でも硬式野球部の夏の大会での準決勝は脳裏に焼き付くものでした。大半の方が負けを覚悟する中、選手たちの勝負へのこだわりは、卒業生である我々も含め、多くの方々に夢や希望を与えるものになったと思っております。決勝戦ではスタンドで多くの方々にご声援いただき、鳥羽高校ファンが非常に多くおられることに驚きつつ、鳥羽高校の卒業生で良かったと再認識する時間でもありました。

少子高齢化が進むことで、今まで当たり前だったことが、当たり前でなくなる時代になってきています。そのような中だからこそ、京二中鳥羽高校の同窓会を通じ、繋がりを醸成していきたいでしょう。

京二中鳥羽高校
同窓会報

卒業生のみなさんへ

関東・京二中鳥羽同窓会 奈佐 和也

この度は御卒業、誠にありがとうございます。新たに同窓会の一員となる皆様を、心より歓迎いたします。

私は現在、京都を離れ神奈川県に在住しておりますが、関東近郊に集う京都二中・鳥羽高校の卒業生を繋ぐ「関東・京二中鳥羽同窓会」の運営に携わっております。

現在、主だった活動としては毎年11〜12月に関東・京二中鳥羽同窓会としての懇親会を開催しております。前回は2025年11月29日(土)に東京・新橋駅近辺にて、京二中卒業生の方1名(小林敏明様)、鳥羽卒業生8名にお集まり頂きました。毎回ご列席いただいている京二中OB小林様は相変わらずお元気な様子で、今なお色褪せない往年の京二中の貴重なお話を伺い、時代を超えた母校の歴史に触れるひとときとなりました。

また今回は遠路遠々、田中学校長先生、小川同窓会会長にもご出席いただき、田中学校長からは、現在の鳥羽高校の状況と昨年大健闘した野球部の試合についてお話いただき、参加者一同、大いに盛り上がりました。また小川会長からは、同窓会に対する熱い思いを語って頂き、改めてこの活動の大切さを認識することができました。

小規模な集まりではありますが、卒業生同士の絆を深める大事な場として、活動を継続しております。

関東
京二中鳥羽同窓会

ぜひご連絡ください。

メールアドレス
knt.k2c.toba@gmail.com

『京二中創立123年・鳥羽高校
創立40周年記念誌』 無料配布

【内容】30周年記念誌発刊後の10年のあゆみ
【仕様】A4サイズ、20頁、オールカラー、105g

御希望の同窓生・旧職員の方に無料(1人1冊)で配布させていただきます。
郵送ご希望の場合は、送料(郵便料金210円)をご負担願います。
なお、数に限りがございますので在庫がなくなり次第、終了させていただきます。
＜お問い合わせ先＞京二中鳥羽高校同窓会

同窓会は鳥羽高校に、こんな支援をしています

- 全国・世界大会等出場生徒に対する激励金
- 生徒(国内・海外)研修等の教育活動支援
- 記念行事の際に学校と共催で実施
- 卒業生への記念品



今年の卒業生からのメッセージ

武田 隆太さん (スポーツ総合専攻)



3年間の学校生活を振り返ると、多くの出会いや学びに恵まれた時間だったと感じます。日々の授業や行事、部活動を通して、人と関わりながら物事に向き合う姿勢を学ぶことができました。思うようにいくことばかりではなく、苦しいこともありました。その経験が自分自身を成長させてくれたと感じています。高め合える仲間や御指導くださった先生方、変わらずいてくれる家族の存在があったからこそ、ここまで歩んでくることができました。

鳥羽高校で過ごした日々は、これから先の人生の大きな支えになるはずです。この出会いと学びを大切にしながら、目標に向かって進んでいきたいと思います。

明石 琢磨さん (グローバル科)



僕はこの3年を振り返り、とても充実した3年間だったと感じています。日々の学校生活では最高の友達と何気ないことで笑い合いながら楽しく過ごすことができましたし、れんが祭や鳥羽総体などの行事でもクラスで協力して良いものを作ることができました。また、第二外国語や出前授業では、他にはないものを学ぶこともできました。

鳥羽高校での学びやたくさんの思い出を糧にこの先も自分の目標に向かって努力していこうと思います。高校3年間をこの鳥羽高校で過ごすことができて本当に良かったです。

佐藤 康平さん (スポーツ教養コース)



僕は、この3年間で人間として大きく成長することができました。部活動や勉強、そして学校行事に追われる日々は非常に多忙で、逃げ出したくなることもありました。しかし、それでもこの3年間を乗り越えることができたのは、両親や3年間で共に過ごしたクラスメイト、部活動のチームメイト、そして先生方など、多くの人に支えていただいたからです。

これからは、これまで支えてくださった数多くの方々への感謝の気持ちを胸に、鳥羽高校で学んだことを活かしていきたいです。そして、自分の夢に向かって精進していきます。

橋本 結依さん (レバラルーツコース)



この3年間は、テストや課題に追われながらも、行事には本気で取り組み、気付けば笑ってばかりの毎日でした。鳥羽総体やれんが祭、廊下や教室で過ごした何気ない時間、チャイムに急かされて走った記憶は、今でもふとした瞬間によみがえります。当時は、何も考えず過ごしていた日常も時間が経った今だからこそ、特別な時間だったとわかります。また、鳥羽高校で過ごした日々は、知らないうちに今の自分に影響していて、ちゃんと残っているなど感じます。

この3年を土台に、自分らしく夢に向かって努力していきたいです。

等)は次のとおりです。「グローバル科、スポーツ総合専攻を含む普通科を設置する高校として、高大社連携による探究活動や伝統文化活動、国際交流、地域と連携したスポーツ活動等によって、質の高い学力の育成と個性の伸長を図り、国際社会で活躍する人材を育成する。」本校では、素直で礼儀正しい生徒たちが、学習や部活動、探究活動など、自らが打ち込みたいことに一生懸命に真面目に取り組める環境があります。また、自らの可能性を信じて、最後まで諦めずに頑張る姿勢が顕著です。そんな学校文化・風土を生徒と教職員が共に培っている学校が鳥羽高校です。本校生徒の様子を見ていただくと、京都府第二中学校から受け継いだ文武両道、質実剛健の校風は今も健在であると実感していただけたと思います。京二中の卒業生で、本校の表彰制度「平澤盃」にその名をいただいていた、元京都大学総長平澤興先生の名言に、「子どもには無限の可能性がある」という言葉があります。この言葉は本校が大切にしていた言葉で、私も折に触れ、生徒・教職員と共有しています。今年度の夏にこの言葉を美意識させることができました。舞台は全国高校野球選手権京都大会準決勝。京都外大西高校との勝負は、9回裏「3対7」の4点ビハインドで2死1塁。ここから繋いで繋いで、1点を返し、なお2死満塁の場面をつくり4番打者を迎えました。そして、フルカウントからサヨナラ満塁HRが生まれたのです。漫画の世界を超えるような現実、私も現地で涙が止まりませんでした。この結果は、チームのみんなが「自分たちの可能性を信じて、絶対に最後まで諦めない精神」を持っていたからこそ成しえた偉業でした。この奇跡的な現実を生み出したのは、本校での日々の学校生活全体をおして培ったチカラです。部活動での鍛錬だけの成果ではなく、学校生活全体での鍛錬の成果です。そして、このようなチカラを育てる土壌を本校は有しており、先輩方から脈々と引き継いでいるのです。このことを私は2学期始業式で生徒たちに伝えました。

AIが急速に発展し続ける現在の社会にあつて、本校では、高校生がどのような学びを通して学力や生き抜くチカラを身につけるのかを模索し続けています。それを支えるのが、国内外の大学や学術機関、企業、地域等と連携した、多様な人々との協働です。これまでも同窓会のみならず、御協力をいただいております。さらに今後も積極的に御協力をお願いしたいと思っています。ヴァーチャルでもなくオンラインでもないリアルな場での学びの代表格である、れんが祭や鳥羽総体、水泳大会、研修旅行等の学校行事における生徒の熱量も大変大きく、無限のエネルギーを感じることができます。また、部活動では、今年度もこれまでに水泳(水球)、ウエイトリフティング、陸上競技、放送、囲碁・将棋の各部が全国大会で活躍しました。本校は決して恵まれた施設・設備が完備されているわけではありませんが、生徒と教職員の創意工夫により活動を充実させています。激変する社会に果立っていく鳥羽高生を温かく見守っていただくとともに、今後も同窓生のみならず、いっそう友誼を深められ、母校の発展にむけて物心共にお力添えを賜りますようお願いいたします。



京二中鳥羽高校同窓会顧問
京都府立鳥羽高等学校校長

田中 誠樹

子どもには無限の可能性がある

京二中鳥羽高校同窓会規約

第一章 総則

第一条 本会は、京二中鳥羽高校同窓会と称し、その本部を京都府立鳥羽高等学校内に置く。

第二条 本会は、会員相互の友誼を深め、母校の発展に貢献することを目的とする。

第二章 会員

第三条 本会は、下記の会員をもって構成する。

一 正会員

※京都府立京都第二中学校卒業生

※京都府立鳥羽高等学校全日制卒業生

※両校に在学した者で、会員の紹介により理事会が入会を承認した者

二 特別会員

両校現旧教職員、または理事会の推薦する者

第四条 会員は、住所、氏名、その他名簿記載事項に変更のあった場合は、本会に通知しなければならない。

第三章 役員

第五条 本会に下記の役員を置き、任期は各2年とし、重任をさまたげないものとする。

一 名誉会長

会員の中から理事会の議を経て会長が推挙する。

二 会長

正会員の中から1名を理事会が推挙し総会で選出する。

三 副会長

両校ごとの正会員の中から若干名を会長が指名する。

四 理事

両校ごとの正会員及び特別会員の中から若干名を、また、ほかに母校の現職員の特別会員の中から幹事会の推薦によって会長が委嘱する。

五 幹事

正会員の中から原則として卒業年度ごとに2名を選出する。

六 監事

正会員の中から2名を会長が指名する。

七 顧問

母校現職校長を推し、また、会員の中から会長が推挙する。

第六条 役員の任務は次のとおりとする。

一 名誉会長及び顧問は、会務運営について必要な助言を与える。

会長は、本会を代表し会務を統括する。また、総会、理事会、幹事会を招集してその議長となる。

副会長は、会長を補佐し会長に事故ある時は代行する。

理事は、理事会に出席して会務を協議、執行する。

理事のうち、会長の指名する若干名で本会の庶務会計に關する日常事務を担当する。

五 幹事は、その卒業年度の会員の連絡に当り、また、幹事会に出席し、理事会の決議に基づき会務を担当する。

六 監事は、会計に関する事項を監査する。

第四章 事業

第七条 本会は、その目的を達成するために、下記の事業を行う。

一 総会

毎年、京都市において開催する。

なお、必要のある場合、随時、臨時総会を開く。

二 理事会、幹事会
必要に応じて開く。

三 理事会において適切と認められる事業。

第五章 会計

第八条 本会の経費は、会費、寄付金、事業収益金、財産収益金、その他をもってこれにあてる。

第九条 正会員は、卒業時に終身会費を納入する。その額は理事会において定める。

第十条 総会及び各種集会に要する経費は、そのつとこれを定め、原則として出席者から徴収する。

第十一条 本会の会計年度は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第十二条 会計及び事業報告は、総会においてこれを行う。

第六章 支部

第十三条 会員の多数存在する地方に本会支部を設けることができる。

支部の設置及びその規約は、理事会の承認を得なければならない。

第十四条 支部は、その代表者より支部会員の名簿、役員の指名並びに会務概況を本部に報告し、常に本部との連絡を保たなければならない。

第七章 規約の変更

第十五条 規約は、理事会の決議によってこれを変更することができるが、次の総会において、その承認を得なければならない。

附則

一 昭和61年度卒業の正会員の終身会費は、3000円とする。

二 本規約は、昭和62年4月1日から実施する。

三 本規約は、平成27年11月3日に一部改正する。

四 平成28年度卒業以降の正会員の終身会費は、4000円とする。



令和7年度 京二中鳥羽高校同窓会 役員名簿

役職	期	氏名	役職	期	氏名
顧問	校長	田中 誠樹	理事	京二中 48	那須 信孝
顧問	鳥羽1	山内 健也	理事	鳥羽 4	藤澤 正則
顧問	鳥羽2	佐々木 克佳	理事	鳥羽 15	市川 靖久
会長	鳥羽5	小川 能弘	理事	鳥羽 16	長束 伸哉
副会長	鳥羽1	奈佐 和也	理事	事務長	村田 純子
副会長	鳥羽3	乾 明紀	理事	鳥羽 1	藤田 雅己
副会長	鳥羽3	谷内 伊吹	監事	鳥羽 7	福岡 千賀子
副会長	鳥羽5	岩佐 隆之			

令和7年度卒業生 同窓会幹事紹介

1組	武田 隆太	◎村上 冬万
2組	國門 奏輝	佐藤 康平
3組	塚本 煌樹	山添 陽希
4組	辻田陽一朗	橋本 結依
5組	毛戸 大雅	坂口 尚行
6組	明石 琢磨	◎吉田 晴喜
7組	碓村 惺空	小池 優真

(◎は、学年代表幹事)

活躍する卒業生 佐々木 克佳さん (2期生)

沖縄県粟国村観光協会 事務局長

鳥羽高校を昭和63年に卒業し、関西電力に就職して36年間勤務し、55歳で選択定年退職して、沖縄県本島からフェリーで2時間の粟国島に1年半前に移住しました。若い頃から海と自然が大好きで、サイパン、ハワイ、オーストラリアなどの海に行きましたが、沖縄の海が世界で最も美しいと実感し、沖縄に移住しようと20年前から考えていました。移住候補地として八重山諸島や慶良間諸島、久米島、徳之島など、オンライン説明会への参加や現地を訪問していましたが、「安定した生活」「家族」「年老いた両親」を思うとなかなか決断できませんでした。しかし、仕事、趣味、家族など環境は充足しているものの、都会の切迫感や焦燥感、人の多さ、季節や自然を感じることがない生活に、何か物足りなさも感じていました。

やりたいことをやらずに人生を後悔したくない!

海や自然の素晴らしさを感じ、1日1日を丁寧に暮らす生活をしたい!!

観光に関わる仕事で地域を元気にすることを仕事にしたい!!!

何となく人生の区切りと思っていた55歳で“やりたいことをする”第二の人生に踏み出しました。年収は6分の1に激減、知っている人が誰もいない離島に単身での移住は、不安と怖さでいっぱいでしたが「一歩踏み出す」と出会いやご縁、チャンスが次々と起こり、観光協会では事務局長を任せられ、破綻直前の観光協会を立て直し、事業の多角化と拡張により年商1億を超えるまでに成長させることができました。

今後も出会いやご縁、チャンスに感謝し、大切にしながら沖縄離島を元気にする活動を楽しみながらお役に立ち続けていきたいと考えています。「何事も一歩踏み出し、動き出す」ことで環境や世界が、流れが変わります! 皆さんも「人生やったもん勝ち!!!」の精神で動き出してください。



令和8年度同窓会総会・懇親会の報告



同窓会総会・懇親会を令和7年11月1日(土)に、「京都新阪急ホテル」において開催しました。

総会では会計報告や新しい役員を選出を行い、引き続き、京二中卒業生による乾杯の発声のもと懇親会を行いました。懇親会では、京二中や鳥羽高校の卒業生がテーブルを囲み、お料理に舌鼓を打ちながら、学校時代の思い出話、また近況報告などに花が咲き、なごやかな雰囲気になりました。また、現在の鳥羽高校の教育活動や部活動など、生徒の活躍シーンをまとめた動画の上映もあり、大いに盛り上がりしました。最後は、恒例となっている京二中と鳥羽高校の校歌の大合唱、記念撮影で締めくくりました。

懐かしい旧友との再会、新たな出会い。同窓会総会・懇親会は多くの魅力でいっぱいです。来年度の総会・懇親会への皆様の御参加をお待ちしています。

生涯旧制二中学生 那須 信孝



私の家族は、父をはじめ叔父・兄・私とすべて二中の卒業生です。私の親しい先輩の中でも、中田新三さん父と兄弟4人、高山元京都市長と46期の寛さん、歯医者の方東先生は親は二中学生は鳥羽高校校医と一族二中出身者は多くおられます。これは言うまでもなく30年間校長を務め、校内に宿泊塾を造り、寝食を共にして質実剛健の特殊な教育をされた中山再次郎校長を慕ってのことであり、その学风は絶える事はありませんでした。残念なことに、公立中学で二中だけが廃校になり、私達48期生が正式に卒業した最後の学年になります。その後鳥羽高校として継承されるのに長いブランクがありましたが、その間も同窓会は継承され、私などは生涯恩師として敬慕して、中山精神を体現された平澤興同窓会会長(京都大学総長)に親しくしていただき、肉声で中山精神をお聞きして、95歳になる今日まで二中精神に培われてまいりました。特に感慨深かったのは、創立80周年記念祝典で、学校からホテルまで平澤会長を先頭に数百人の老壮の同窓生が校歌を歌い隊伍を整えて街路を行進したことであります。

鳥羽高校になってからは、鳥羽高校の歴代校長先生とは、同窓会役員として交流をいたし、特に井口信夫先生とは、憎越ながら信徒として深い御縁でつながっています。また、京都南ロータリークラブの会員としても、20数年以上鳥羽高校と職業奉仕活動として毎年ガイダンスの行事をいたしており、在校の生徒さんに職業体験、質疑応答の交流をしています。今では二中の同窓会役員としては一人になりましたが、生涯旧制二中健児であります。

京二中鳥羽高校同窓会(京都市立鳥羽高等学校内)

〒601-8449 京都市南区西九条大町1

TEL:075-672-6788 FAX:075-691-7448

URL: <https://www.kyo2toba-dosokai.jp> (右)



同窓会は、
ここからつながる。

京二中鳥羽高校同窓会公式 HP

最新の同窓会情報、
活動報告等を発信中。
ぜひ一度、ご覧ください!